

愛知医科大学 第3回教員活動状況報告書

令和3年3月

目次

はじめに

1	評価の概況	1
2	評価項目について	2
3	自己評価の結果	
	(1) 結果の評価方法	3
	(2) 医学部	3
	・評価の進め方	
	・学部全体の比較と考察	
	・部門別の比較と考察	
	(3) 看護学部	8
	・評価の進め方	
	・学部全体の比較と考察	
4	今後に向けて	9
	・両学部	
	・医学部	
	・看護学部	
5	まとめ	11
6	添付資料	
	・ご参考1 教員評価表（医学部）教員評価表（看護学部）	
	・ご参考2 部門・所属一覧	

はじめに

愛知医科大学 学長 祖父江 元

本学の教員評価は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 109 条第 1 項の規定に基づき、愛知医科大学における教育研究活動の一層の進展に資するため実施する点検・評価のうち、教員活動に関する点検・評価の実施について「愛知医科大学教員評価規程（平成 22 年 11 月 15 日制定）」を定め、平成 23 年から平成 25 年を第 1 回、平成 26 年から平成 28 年度を第 2 回の教員評価期間としてまとめ、続く平成 29 年度から平成 31 年（令和元年）度の 3 年間で第 3 回教員評価期間として活動し、今回の「教員活動状況報告書」の作成に至りました。

今回の「教員活動状況報告書」では、これまでの 2 回の評価結果と今回の評価結果を比較し、大学の方針に基づき実施された取り組みにより、教員活動にどのような変化があったかを考察することとしました。

教員評価を実施する目的には、（1）評価結果を通して明確になった課題を解決しながら、教員評価の仕組みを活用することで本学の改善や発展に結びつけること、（2）社会への説明責任を果たすこと、（3）外部評価機関による点検・評価への対応としており、評価制度を用いた PDCA サイクルの中で活動の変化を確認することは、本学の大学改革への取り組み状況を確認すると同時に、新たな課題を浮き彫りにし、次のアクションにつながるものと言えます。

これらのような目的を持って実施する教員評価ですが、より適正な実施のために、平成 31 年（令和元年）度に受審いたしました医学教育分野別認証をはじめ、さまざまな外部評価機関から評価結果を処遇に反映すること等、改善が求められています。本学では、これらの要請に応え、平成 30 年度から評価結果を処遇に反映いたしました。引き続き、大学改革を推進する重要な役割を担えるよう、教職員が一体となり鋭意取り組んでまいります。

1 評価の概況

(1) 自己評価の提出状況について

提出数推移（過去6年）

部門	第2回教員評価			第3回教員評価		
	2014年	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
医学部	174名	339名	378名	392名	378名	358名
看護学部	16名	40名	44名	39名	36名	38名
合計	190名	379名	422名	431名	414名	396名
提出率	49.9%	93.3%	100%	100%	100%	100%

<提出率100%継続のための取り組み>

① 教員評価制度の適正な実施への理解促進

医学教育の国際標準化問題への対応における医学教育分野別評価受審、また、文部科学省による私立大学等改革総合支援事業タイプIにおいて教員評価制度の活用が求められており、教員評価制度の適切な実施のために対象者100%の提出が必要となることを周知した。

② 評価表作成のための教員評価ホームページ利便性向上

教員が評価表を作成する際に、受け持ち授業のコマ数、対象学生数などの情報をまとめて閲覧できるよう、学内イントラネットBANANAの教員評価ホームページにおいて各種データを掲載することでホームページの利便性を向上し、評価表作成における作業負担軽減を行った。

③ 教職協働による制度実施

制度の運用について、教員、職員が一体となって取り組むこととし、委員会において提出率100%を必達目標と定め、制度運用を教職協働により実施した。

以上の取り組みにより、2016年度から2019年度にかけて提出率100%を継続することとなった。

2 評価項目について

評価項目については、第3回教員評価において3点の項目を追加した。(下記参照) 医学部及び看護学部共に基本コンセプト、評価項目のアウトライン、集計ツール等仕組みのベースを同一にした上で、詳細な評価項目等は組織実態に即して若干の相違がある。

ここでは、基本的な評価項目を掲載する。

(詳細は、別紙ご参考1、両学部の教員評価表を参照)

【領域別評価項目】

(1) 「教育」領域

- ①学部学生教育、②研修医教育、③大学院教育、④教員教育 (FD)、⑤医療従事者教育、
⑥ティーチング・ポートフォリオ (追加項目)、⑦その他

(2) 「研究」領域

- ①著書、教科書等、②原著論文、③学会報告、④受賞、⑤外部資金獲得

(3) 「組織運営」領域

- ①大学の委員会、②学部の委員会、③病院の委員会、④講座関係、⑤国際交流事業 (追加項目)、
⑥医学教育分野別評価 (追加項目)、⑦その他

(4) 「社会貢献」領域

- ①学内講師、②学外講師、学会役職、行政の委員、マスコミ

【追加項目について】

・ティーチング・ポートフォリオ

教育活動、教育業績等について、教育理念から成果までを自己省察等を伴い記載するもの。本学では2018年度から「Mahara」と呼ばれるe-ポートフォリオの運用を開始した。また、私立大学等改革総合支援事業の設問に、2018年度からティーチング・ポートフォリオの義務付けが加わった背景もあり、2019年度実施分(2018年度評価)から項目を追加した。

・国際交流事業

本学では、医学部で7校、看護学部で4校の海外国際交流協定校があり(2019年時点)、本学学生を派遣すると共に、各校からの留学生やレジデント、研究員を受け入れている。2015年度に国際交流センターが設置されて以降、協定校の増加と共に受け入れの人数も増加しており、教員がその指導・教育を担っていることを受け、2019年度実施分(2018年度評価)から項目を追加した。

・医学教育分野別評価

2019年度に日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審するにあたり、国際基準に適合した教育内容全般の評価を受けるため、医学部教員がカリキュラム改訂や教育内容の改善などに取り組み、業務量や会議の増加など影響が大きかったことから項目を追加した。

3 自己評価の結果

(1) 結果の評価方法

本学の教員評価制度では、3年毎に評価のとりまとめを行い公表することとしている。2011年から2013年を第1回、2014年から2016年度を第2回、2017年度から2019年度を第3回とし、本報告書においては、第1回から第3回の比較による変化を確認していくこととした。

評価結果の解析手順は、対象データを各年の部門ごとに集計し、第1回、第2回、第3回の平均値を求めた。第2回に含まれる2015年分については、年単位から年度単位に変更したことにより、第2回は39月が対象期間となっていることから、第2回の値には、調整係数(36月/39月=0.923)を掛けて扱うこととした。

また、領域毎に配点の重みづけに違いがあるため、領域毎の変化に着目し、第1回を100とし、第2回・第3回の各領域の値について比較値を算出して比較を行うこととした。

以降は各学部の比較を行う。

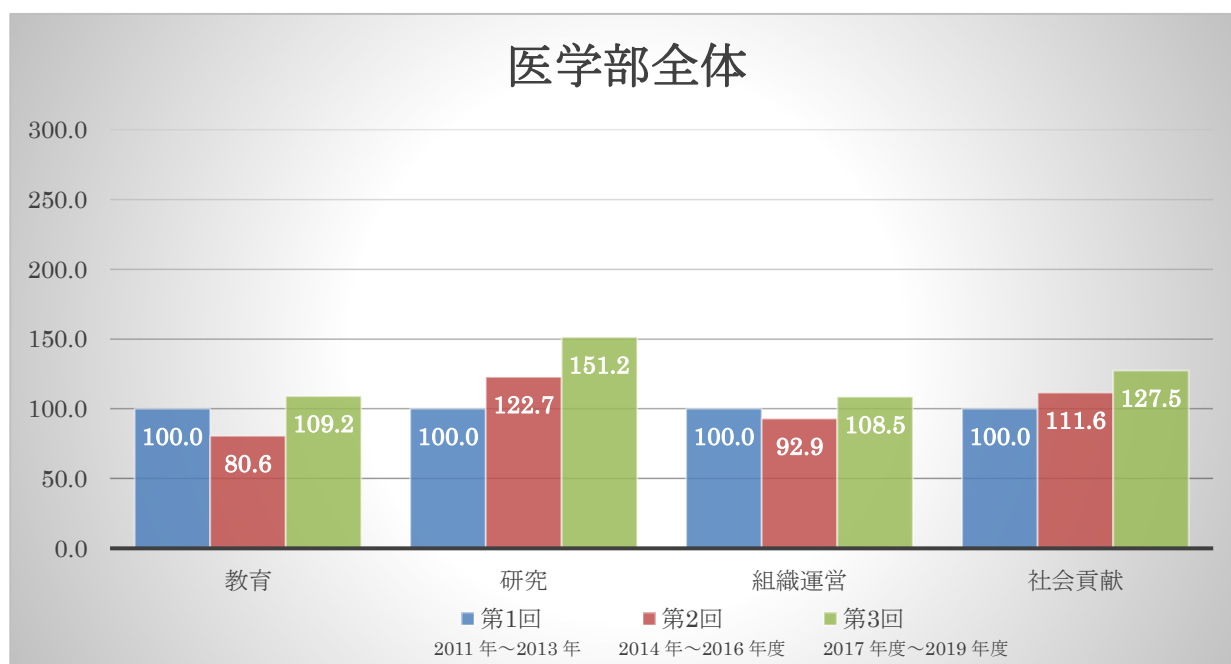
(2) 医学部

【評価の進め方】

3年間の教員活動の評価は、各教員が「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の4領域の得点を評価表に記入して提出し集計を行った。

医学部の部門は①基礎、②臨床、③その他の3区分に分類した。最初に医学部全体の傾向を第1回、第2回と比較検証した上で、3区分それぞれの比較について、検証を進める。

<医学部全体>



(第1回から第3回の比較)

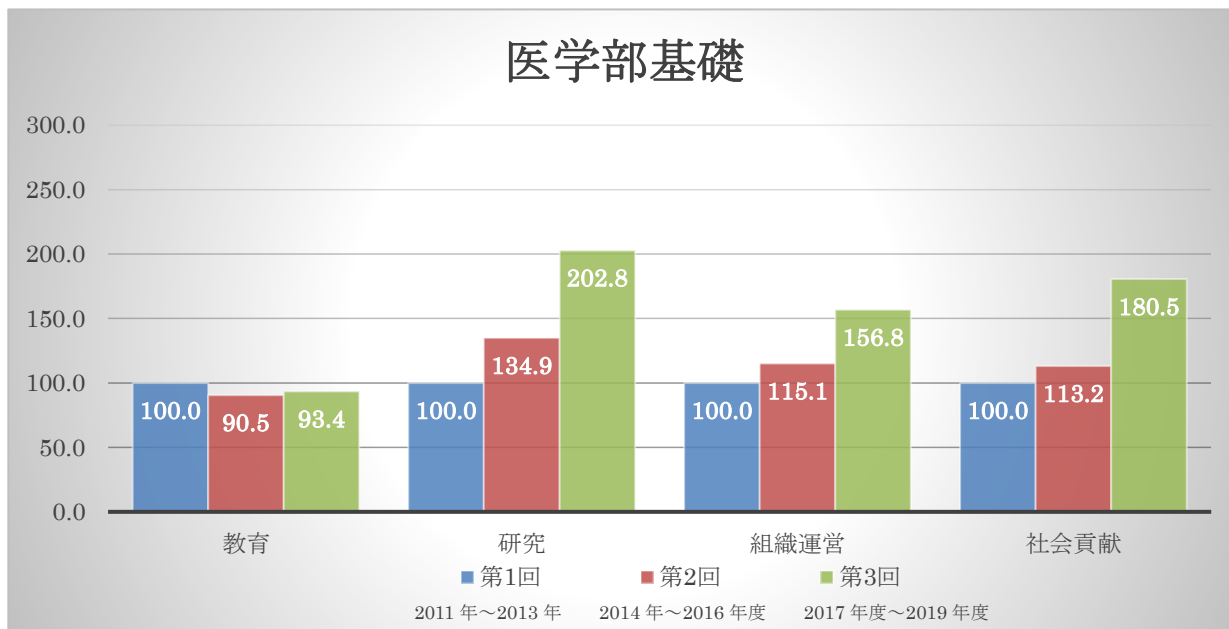
領域別で比較をした場合、教育領域では第2回で80.6%に減少したものの、第3回では109.2%に増加した。同様に、研究領域では151.2%、組織運営領域では108.5%、社会貢献領域で127.5%と、すべての領域において第1回と比較して増加しており、医学部全体があらゆる分野で発展していることが伺える。

(考察)

- ① 教育領域については、2019年に日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を受審したことが大きく影響していると言える。2014年度以降、医学教育分野別評価への取り組みが本格化し、カリキュラム改訂の取り組みや教育組織の充実などが図られた。その結果、評価報告書の「教員」の項目の中では、クリニカルパス・クラークシップにおいて学生3名に対し教員1名以上が指導していることや、多様なテーマでFD（教員研修）が開催され、研修、能力開発支援に活かされていることなどが特記すべき良い点として挙げられており、このような点が教員評価の教育項目における全体的な向上につながったと考えられる。
- ② 第1回と比較して最も伸びの大きい研究領域では、2015年度から始まった若手研究者への申請支援制度「Jump up 作戦」や、具体的な研究活動支援の拠点としての研究創出支援センターの設置以来、科学研究費助成事業（日本学術振興会が行っている、独創的・先駆的な研究に対する助成事業）への申請件数が年々上昇しており、この効果が教員評価にも表れたと考えられる。また、基礎医学と臨床医学の異なる講座の研究者によるグループ研究を支援する「学内研究ユニット創出支援事業」が2016年度から制度化しており、これによる研究活動活性化により、2017年以降、若手研究者の科学研究費助成事業への申請件数が増加するなど、医学部全体の研究の活発化が教員評価に顕著に表れた結果となった。
- ③ 組織運営領域は主に委員会活動、講座関係（医局長、外来医長など）が該当するが、これらはそもそも定数があることから、例えば委員の数や医局長の割り当て人数が増加しない限り、教員評価における全体的な点数増加にはつながりにくい領域である。一方で、2019年度実施分（2018年度評価）からは国際交流事業と医学教育分野別評価の項目が追加されており、両事業における医学部教員の貢献は大きいことから、第1回、第2回と比較して点数増加につながったと言える。
- ④ 社会貢献領域については、学内外における公開講座、学外役員その他、行政における委員やメディアへの出演等が該当している。地域における社会貢献の一つとして、2018年度に文部科学省から採択を受けた「私立大学研究ブランディング事業」を挙げることができるが、この事業では長久手市との連携関係を基盤としたコホート研究を進めている。また、近隣地域における学外公開講座については、2012年度から実施している名古屋市、長久手市に加えて、2016年度から尾張旭市、2018年度から瀬戸市においても開催している。なお、2019年年末頃から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大に係る、テレビや新聞などのマスメディアへの教員の出演増加傾向もみられたが、2019年度における増加はごく一部の教員に限られたため、今回は考察から除外した。今後、2020年度以降の教員評価においてこの影響が結果として表れる可能性はあるため、

今後も社会貢献領域の動向に着目する必要がある。

< 基礎 >



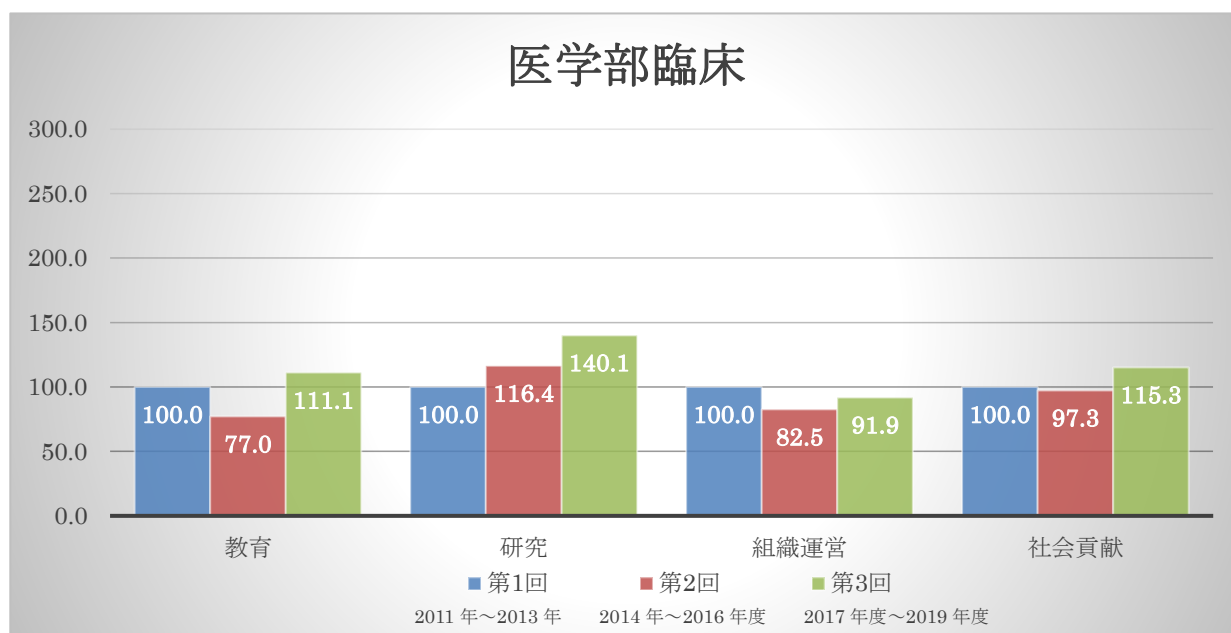
(第1回からの比較)

研究領域は 202.8%、組織運営領域が 156.8%、社会貢献が 180.5%に増加し、教育領域は 93.4%に減少した。

(考察)

医学部基礎部門では、医学部のその他2部門と比較して研究領域が著しく向上しており、医学部全体の研究領域の伸びを牽引している。基礎系教員の研究に対する尽力と、研究機器や環境の整備、また、基礎研究医を養成する人材育成教育などの大学全体の研究への支援が結果として表れたと言える。教育領域については第2回から引き続き第1回と比較すると点数が低下しているが、この原因としては、第1回から第3回にかけて医学部基礎部門の准教授の人数が減少し、反対に助教の人数が増加したことによるものであると考えられる。しかし第2回と比較すると、医学教育分野別評価受審に係る教員の尽力もあり第3回では上昇傾向にあることから、第4回以降は助教の活躍も含め教育領域のますますの向上が期待される。

<臨床>



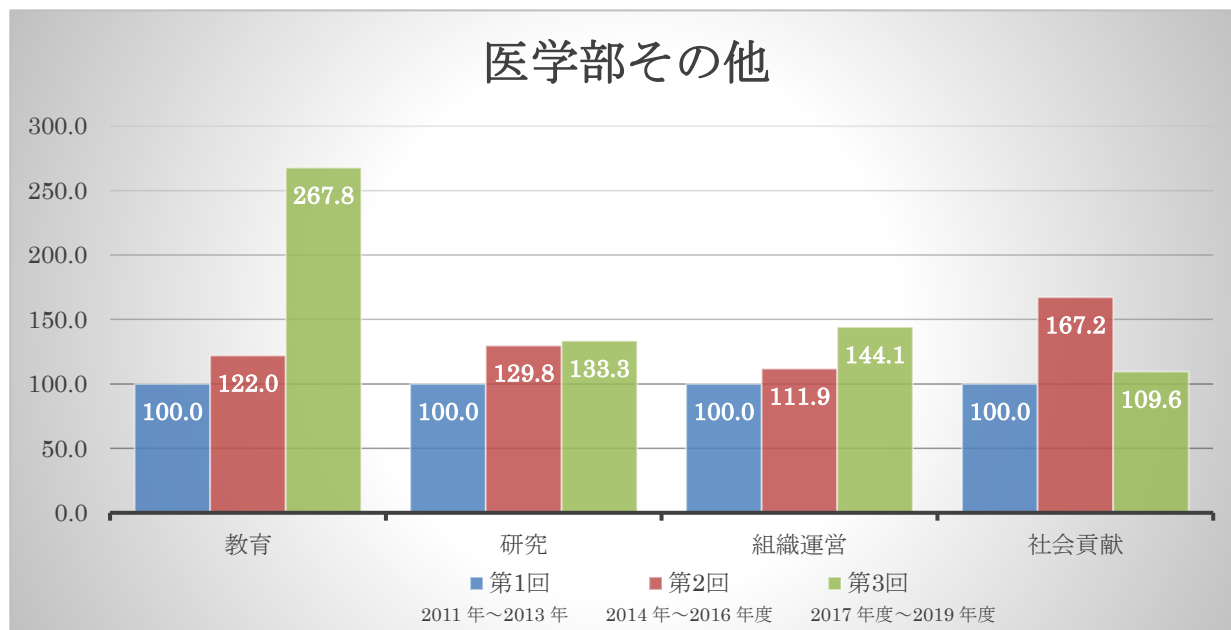
(第1回からの比較)

教育領域で111.1%、研究領域で140.1%、社会貢献領域で115.3%に上昇した。組織運営領域は91.9%に減少となった。

(考察)

教育領域、研究領域、社会貢献領域の3領域が上昇している傾向は、学部全体の傾向と概ね一致している。医学教育分野別評価受審による教育領域の向上だけでなく、「学内研究ユニット創出支援事業」において臨床医も積極的に研究に参加していることなどが研究領域の飛躍的な伸びにつながったと言える。

<その他>



(第1回からの比較)

教育領域で267.8%、研究領域は133.3%、組織運営領域は144.1%に上昇した。一方で社会貢献領域については第1回と比較すると上昇しているものの、第2回と比較すると57.6%減少している。

(考察)

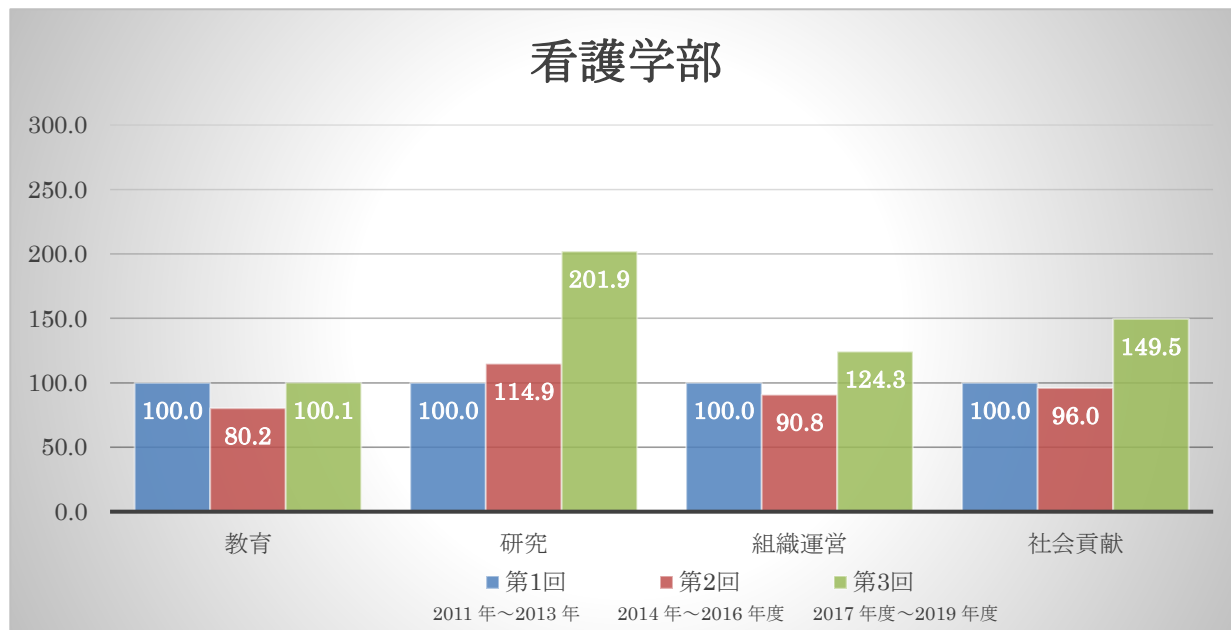
第3回教員評価では医学教育分野別評価受審のため、その他の部門の教員も、研究だけではなく教育改革にも大いに尽力したことが結果から伺える。社会貢献領域については第2回と比較すると数値的には低下しているが、これは各部門においてこれまで活躍してきた教員の退職による全体的な組織的若返りが関係していると考えられる。しかし、災害医療研究センターを始め各部門が行政機関や近隣地域との官学連携を通して、研究活動の還元、啓発活動の実施、研修・教育機会の提供を継続的に実施していることが第三者機関から評価されていることから、この領域における教員活動は活発に行われていると言える。

(3) 看護学部

【評価の進め方】

3年間の教員活動の評価は、各教員が「教育領域」「研究領域」「組織運営領域」「社会貢献領域」の4領域の得点を評価表に記入して提出し集計を行い、学部全体の傾向を第1回から比較した。

<看護学部全体>



(第1回からの比較)

教育領域で100.1%、研究領域で201.9%、組織運営領域で124.3%、社会貢献で149.5%増加しており、看護学部全体の教員活動の活発化が伺える。

(考察)

- ① 教育領域については大きな変化は見られないものの、2017年度からの新カリキュラム導入、学修成果把握のためのアンケート実施など、看護学部教員は教育内容の充実に向けて取り組んでおり、また、看護師国家試験の合格率が2015年度以降100%を維持していることについては、これらの取り組みの成果が表れたと考えられる。さらに、今後、令和4年度の看護学分野別評価を受ける準備を進めており、教育分野のますますの教員活動活発化が期待できる。
- ② 研究領域については、若手教員を対象とした科研費獲得セミナーの実施や、若手教員を対象とした学内研究助成金・共同研究助成金の活用による研究の活性化の促進など、研究活動への注力が伺える結果となった。
- ③ 看護学部の評価表では、組織運営の領域に、新入生研修、防災訓練、高校訪問などといった、「各種行事への参加」等も含まれており、看護学部教員が各委員会に従事して組織運営に携わっているだけでなく、各種行事においても積極的に参加し、活発に活動したことが結果から伺える。
- ④ 社会貢献の領域については、2017年度に長久手高等学校との間に「高大連携協定」を締結しており、看護学部教員が同校のプログラム編成に参画していることや、星が丘テラスにおける「健康と看護の教室」の開催など、看護学部教員による積極的な地域貢献が今回の結果につながったと考えられる。

4 今後に向けて

<両学部>

□教員評価制度の定着

2016年度以降、教員評価の提出率は毎年100%を維持しており、医学部・看護学部両学部において教員評価制度が定着したと言える。第3回評価では3ヵ年すべてにおいて100%を達成したことにより、愛知医科大学の教員活動を適正に評価する準備が整ったと言える。今後もこの100%提出を継続していくことにより、第4回、第5回と正確な年度ごとの正確なデータ比較が可能となり、教員活動の適正なPDCAサイクルの実現、教員活動の一層の改善を図ることができる。そのために、今後も制度を適切に運用し、対象教員の全員参加が必要不可欠な要件であることを再認識し、提出率100%を継続させていくことが重要である。

□ITを利用した教員評価の負担軽減策の検討

現在の教員評価のシステムでは、評価表に教員自身が活動状況を入力して点数をつけていることから、入力作業が教員の負担となっていることは否めない。今後は、ITを利用することによる、各データベースから教員評価表への正確なデータ反映など、評価表作成に係る教員の負担軽減策を調査、検討していく。

<医学部>

□評価方法、評価基準やパフォーマンス測定について

所属部門や講座、役職の役割を考慮した場合に、一律の評価基準や価値では適切な評価が難しく評価方法の見直しは引き続き課題となっている。基礎系教員は研究、臨床系教員は診療など、部門ごとに時間や労力を割く領域は異なっており、その点を考慮していかに公平な評価をするかという点は今後も検討していかなければならない事項である。

□教育領域の活動継続について

第3回教員評価の教育領域においては、医学教育分野別評価受審の影響が大きく、多くの教員が教育の質を高めるための様々な改革に尽力した。その結果、医学部の教育はグローバル・スタンダードを踏まえた評価基準に適合していることが認定された。この認定をゴールではなくスタートと考え、今後も医学部における学生教育をより良いものとするために、教育改革の検討と試行を繰り返し、教員が一丸となって活動を継続する必要がある。

□研究活動の成果について

研究創出支援センターの設置や、「学内研究ユニット創出支援事業」の制度化などの研究活性化対策により、研究領域の教員活動は飛躍的に活発化したと言える。「私立大学研究ブランディング事業」など、研究活動にとどまらず、社会貢献の側面も持ち合わせる研究も増えており、今後ますますの発展が期待される。

□教員が積極的に組織運営にかかわる機会の提供

学内の委員会などを通して大学、病院の組織運営に携わることは、教員だけではなく、愛知医科大学の一組織人としての意識を高め、今後の組織運営を見据えた上で教員活動を行うための動機付けとなる。大学、病院の組織運営に、若手教員を含め多くの教員が参画できるような機会を提供する仕組みが必要である。

□臨床活動の評価の検討

評価方法の項目において言及したように、医学部には臨床活動に注力している教員も多く、特に臨床部門の若手教員は多くの時間を臨床活動に費やしている。そのため、臨床活動の評価をしていない現在の教員評価は、改善の余地が残されていると考えられる。今後は、他大学の事例を調査し、本学においても臨床活動を評価項目に加えることを検討していく。

<看護学部>

□教育成果の維持

看護学部教員の様々な教育改革は、現行の教員評価項目では結果として表れにくいものの、国家試験合格率 100%継続がその功績を物語っていると言える。今後も、優れた看護師を育成するために教育の質の向上を常に目指し、今回の成果を維持していく必要がある。

□研究活動活性化の継続

前回の報告書では、看護学部教員は学生教育に重点を置いてきたことにより、研究活動が進みにくい傾向が続いていると考察があったが、今回はその後の研究活性化対策が功を奏したことが伺える結果となった。今後も教員の研究への意識と大学の支援をもって、看護学部における研究活動のさらなる活発化が期待される。

□積極的な社会貢献活動の推進

看護学部教員の地域・社会貢献活動は、各自治体、教育機関、関係企業と本学をより良い関係で結び、また、将来の看護学生・看護師育成のための基盤づくりの一端を担っており、今後も引き続き積極的に社会貢献活動を推進していくことが重要である。

5 まとめ

今回、教員が2017年から2019年度の3年間の業績を自己評価し、第3回教員評価を実施した。この教員活動報告書を作成するにあたり、過去2回の教員評価との比較により、過去9年間のうち、この3年間で本学の教員がどのように大学・病院において活動を活発化させてきたか、定量的データをもって考察することができた。

18歳人口の減少やDX(デジタルトランスフォーメーション)時代の到来など、大学を取り巻く環境は日々刻々と変化しており、また、第3回教員評価においては医学教育分野別評価受審、文部科学省による私立大学等改革総合支援事業タイプIの申請などといった公的機関による本学への調査や評価の実施も行われる中で、本学教員は環境変化に適宜対応し、積極的に課題に取り組んできた成果が今回の教員評価の結果に表れたと言える。

教員評価導入の真の目的は、評価結果から課題を抽出して改善に取り組むことにある。そのためには、教員は今回の結果に甘んじることなく、常に来たる新しい時代の課題を見据え、早期の解決と改善に取り組むと同時に、運営側は環境変化に合わせて評価の仕組みを常に検討・改善を繰り返すことによって、教職協働を基盤とした教員評価の活用が必要とされている。

今後、教員評価の活用により、教員活動のPDCAサイクルがますます活発化し、教員活動の活発化を組織力の向上へとつなげていくことが重要である。

教員評価表（医学部）

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限

領域	2017	2018	2019	合計
1 教育	0	0		0
2 研究	0	0		0
3 組織運営	0	0		0
4 社会貢献	0	0		0
総合ポイント	0	0	0	0

領域合計点へ

1 教育	基準単位	ポイント		2019	小計
(1) 学生教育					
(a) 通常講義	1 コマ	2	件数	0	0
	コーディネーター	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 総合医学	1 コマ	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 他の学部/大学の講義	1 コマ (学内)	2	件数	0	0
	1 大学 (学外)	4	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(e) チュートリアル	参加 1 回	2	件数	0	0
	シナリオ作成・BU	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(f) 基礎実習	1 回/日	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(g) クリクラA	指導担当	40	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(h) クリクラ2	1 名	10	人数	0	0
			ポイント計	0	0
(i) OSCE	評価者/station	5	件数	0	0
	学内・学外共通		ポイント計	0	0
(j) CBT	問題作成	5	件数	0	0
	ブラッシュアップ(BU)	10	件数	0	0
	試験監督	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(k) 卒業試験	問題作成	5	件数	0	0
	ブラッシュアップ	15	件数	0	0
	試験監督	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(1) 入学試験	問題作成	20	件数	0	0
	採点	10	件数	0	0
	面接/回	7	件数	0	0
	監督/回	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(2) 研修医教育	1 名	1	件数	0	0
研修指導医講習会	タスクフォース	5	件数	0	0
	講習会参加	2	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(3) 大学院教育	直接指導/1 名	10	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(4) 教員教育 (FD)	FD出席	2	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(5) 医療従事者教育	講義/回	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(6) ティーチング・ポートフォリオ	Maharaの更新	2	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(7) その他	具体的に記載	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
			ポイント合計	0	0

2 研究	基準単位	単位ポイント		2019	小計
(1) 著書, 教科書等		点/冊			
(a) 著書・教科書 (説明参照)	英文	15	件数	0	0
	和文	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 参考書等 (説明参照)	英文	10	件数	0	0
	和文	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) その他 (説明参照)	(セルに記載)	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(2) 原著論文	インパクトファクターの調べ方	1編当たり			
(a) 欧文誌 1	IF \geq 5 1st/2nd/correspond	15	件数	0	0
	Web of science ID または IF \geq 5 others	3	件数	0	0
	PubMedに掲載されている論文		ポイント計	0	0
	IF \geq 1 1st/2nd/correspond	10	件数	0	0
	IF \geq 1 others	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	IF $<$ 1 1st/2nd/correspond	5	件数	0	0
	IF $<$ 1 others	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	IFなし 1stのみ	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 欧文誌 2	1stのみ評価	3	件数	0	0
	上記以外の論文 (セルに記載)		ポイント計	0	0
(c) 和文誌 1	学会誌などで筆頭者のみ評価	2	件数	0	0
	医中誌に掲載されている論文		ポイント計	0	0
	その他で筆頭者のみ評価	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 和文誌 2	筆頭者のみ評価	1	件数	0	0
	上記以外の論文 研究報告書などもここに記載 (セルに記載)		ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(3) 学会報告					
(a) 国際学会	特別講演演者	20	件数	0	0
	特別講演座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	15	件数	0	0
	シンポジウム座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	10	件数	0	0
	一般口演座長	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	ポスター発表者	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 国内学会	特別講演演者	15	件数	0	0
	特別講演座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	10	件数	0	0
	シンポジウム座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	5	件数	0	0
	一般口演座長	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	ポスター発表者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) 地方会レベル	特別講演演者	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 研究会レベル	特別講演演者	3	件数	0	0
	一般発表演者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(4) 受賞					
(a) 全国レベル	国際レベルに匹敵	50	件数	0	0
	上記以外	30	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 地方レベル	地方でトップクラスの賞	30	件数	0	0
	上記以外	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) 学会関係	学会で優れた功績を顕彰	20	件数	0	0
	最優秀演題	10	件数	0	0
	優秀演題	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) その他	(セルに記載)	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(5) 外部資金獲得	研究費(継続年もカウントする)	点/件			
	公的機関の研究助成金 代表	30	件数	0	0
	科研/厚労科研/文科省など 分担	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	(代表のみ評価) 財団・NPOなどの研究助成金 代表	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	企業との受託・共同研究/件	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
			ポイント合計	0	0

領域合計点へ

3 組織運営	基準単位	単位ポイント		2019	小計
委員会名簿参照	1年間	1委員会あたり			
(1) 大学の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(2) 学部の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(3) 病院の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(4) 講座関係	医局長・講座長病棟・外来医長	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(5) 国際交流事業	指導担当	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(6) 医学教育分野別認証	リーダー	5	件数	0	0
	コアメンバー	3	件数	0	0
	メンバー	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(5) その他	具体的に	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
			ポイント合計	0	0

領域合計点へ

4 社会貢献		基準単位	単位ポイント		2019	小計
(1) 学内			点/回			
		公開講座講師	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		新入生ガイダンス講師	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		その他のイベントの講師	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
(2) 学外		役職/年	点/役			
		公開講座講師	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
(a) 国際または全国規模の学会		理事・監事	20	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		評議員・代議員・幹事	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		大会長	20	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		その他	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
(b) 地方会レベルの学会		理事・監事	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		評議員・代議員・幹事	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		大会長	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
(c) 行政		国	委員会などの委員	10	件数	0
		自治体	委員会などの委員	5	件数	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
		その他	10	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
(d) マスコミ		新聞・TV報道	全国レベル	20	件数	0
			地方レベル	10	件数	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
	交流	教育・研究連携	5	件数	0	0
		医療連携	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0
				ポイント合計	0	0

教員評価表（看護学部）

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限

領域	2017	2018	2019	合計
1教育(看)		0.0		0.0
2研究(看)		0.0		0.0
3組織運営(看)		0.0		0.0
4社会貢献(看)		0.0		0.0
総合ポイント	0.0	0.0	0.0	0.0

1. 教育

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)学部教育

(a)授業

■科目責任者(教養・専門ゼミも含む)	3点
■試験・レポート採点(問題作成も含む)	1回2点(レポート・定期のみのときは1回、中間を含むときは2回)
■講義	1コマ2点(AB、2クラスに分けて行う場合それぞれ2点とする)
■演習	1コマ1点
■教養ゼミ、専門ゼミ	1コマ1点

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習/教養・専門ゼミ コマ数	成績評価の有無 (試験・レポート)	定期/中間試験 /レポートの回数	再試験の回数	科目責任者	ポイント
例)病態治療学 I	2	前期	15	3	試験	1	2	有	44.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

医学部授業

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	学部名	ポイント
例)分子病態学	3	前期	1	医学部	2.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習	1日1点
■科目責任者	実習期間あたり3点
■成績評価	実習全クールあたり2点

授業科目名	学年	学期	担当日数	追再実習日数	科目責任者	成績評価	ポイント
例)療養生活支援実習	3	後期	40	5	有	有	50.0
							0.0
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(c)卒業研究

■個人研究	1名 10点
■グループ研究	1名 2点(5名以内は1律10点)

科目名	研究課題	学生名	研究種類	人数	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(d)看護総合

■問題作成	1問0.5点		
問題作成試験科目名	試験名	問題数	ポイント
例)形態・病態	看護総合1回目	30	15.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

■解説講義	1回1点			
解説講義 担当領域	試験名	実施回数	実施日	ポイント
例)病態治療学	看護総合1回目	1	2月1日	1.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(e)入試(推薦・社会人)

■問題作成・採点	10点	
■面接	5点	
試験科目名	実施日	ポイント
例)小論文	2月1日	10.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

入試(一般)

■一般問題作成・採点20点、採点のみ2点			
試験科目名	実施日	問題作成	ポイント
例)国語	2月1日	問題作成・採点	20.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(f)国試対策

■補講	1コマ2点		
補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(g)ティーチング・ポートフォリオ

■更新 Maharaの更新	2点
最新の更新日	ポイント
	0.0

ポイント小計
0.0

(2)卒業教育

■講習会講師 1コマ2点 (医大病院看護部に限る)			
補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(3)大学院教育

(a)授業

■科目責任者 3点						
■講義 1コマ2点						
■演習 1コマ2点						
授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習コマ数	科目責任者	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習 1日1点					
■科目責任者 実習期間あたり3点					
授業科目名	学年	学期	担当日数	科目責任者	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(c)修士論文

■研究指導教員 20点		
■副研究指導教員 5点		
■研究補助教員 3点		
■審査委員 5点		
研究指導教員 領域名	学生名	ポイント
愛知 花子	愛知 花子	20.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

副研究指導教員 領域名	学生名	ポイント
例)精神	愛知 花子	5.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

研究補助教員 領域名	学生名	ポイント
例)母性	愛知 花子	3.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

審査 領域名	学生名	ポイント
例)母性	愛知 花子	5.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

(d)入試

■問題作成・採点 10点				
■面接 5点				
試験科目名	実施日	問題作成	面接	ポイント
例)老年	2月1日	有	有	15.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)看護実践センター

(a)センター研究指導

■1名 10点			
科目名	研究課題	学生名	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

2. 研究

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)著書、教科書

教科書分担執筆

■教科書分担執筆 英文	2
■教科書監修編集 英文	10
■教科書分担執筆 和文	1
■教科書監修編集 和文	5

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	英文/和文	ポイント
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

教科書監修編集

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	英文/和文	ポイント
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

DVD

■DVDなど	5	5
--------	---	---

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

ガイドライン

■ガイドライン作成	10/作成者数
-----------	---------

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	作成者数	ポイント
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

(2)原著論文

(a)欧文誌 1

(PubMed掲載有り)

■IF \geq 5 1st/2nd/correspond	75	インパクトファクター(IF)参照
■IF \geq 5 others	15	
■IF \geq 1 1st/2nd/correspond	50	
■IF \geq 1 others	10	
■IF $<$ 1 1st/2nd/correspond	25	
■IF $<$ 1 others	5	

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	インパクトファクター	IF区分	ポイント
例) Yamashita	Four paramete	J Hum Genet.	57	368-74	2012	22513715	2.57	IF \geq 1 others	10.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

(b)欧文誌 2

(PubMed掲載のないもの、IFのないもの)

■1stのみ(重要な論文である理由)	15	
■IF $<$ 1 others	3	
原著	総説・報告	資料

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	区分	ポイント
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌1

(全国規模学会誌)

■原著	筆頭者	10	■総説・報告	筆頭者	5	■資料	筆頭者	2
	2nd/correspond	5		others	1		others	1
	others	2						

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
例) 井村幸恵	透析室の看護	原著	2nd/correspon	日本環境感染	27	91-95	2012	2012187174	5.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌2

(紀要その他:査読のある雑誌)

■原著	筆頭者	5	■総説・報告	筆頭者	3	■資料	筆頭者	1
	2nd/correspond	3		others	1		others	0.5
	others	1						

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌3

(査読のない雑誌)

■原著	筆頭者	3	■総説・報告	筆頭者	2	■資料	筆頭者	1
	others	1		others	1		others	0.5

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

(3)学会報告

(演者は発表者のみをカウント)

(a) 国際学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b) 国内学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
例) 第52回日本	ポスター	衣斐 達、佐橋	ミトコンドリア脳	2011.5.20	東京	2.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(c) 地方会レベル

■特別講演演者	5
■特別講演座長	1
■シンポジスト演者	3
■シンポジスト座長	1
■一般口演演者	1
■一般口演座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

■その他研究会などの発表者	1
---------------	---

研究会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(4) 受賞

(a) 全国レベル

■国際レベルに匹敵	50
■上記以外	30

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b) 地方レベル

■地方でトップクラスの賞	30
■上記以外	10

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(c) 学会関係

■学会で優れた功績を顕彰	20
■最優秀演題	20
■優秀演題	5

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

	10
--	----

賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(5) 外部資金獲得

(a) 公的機関の研究助成金

(科研/厚労科研/文科省など)

■公的機関の研究助成金 代表						30
■科研/厚労科研/文科省など 分担						10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	機関	ポイント	
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b) 財団・NPOなどの研究助成金

■財団・NPOなどの研究助成金					10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	ポイント	
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(c) 企業との受託・共同研究ノ件

■企業との受託・共同研究ノ件					10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	ポイント	
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

3. 組織運営 (委員会名簿参照) 領域合計点へ ポイント合計
0.0

(1)大学の委員会/WG

- 任期が通年の委員長・委員については4月1日からのものをポイント換算する
(出席点はH24年1月1日から換算する)
- 任期が通年でない委員会、WGについては、開始がH24年1月1日からのものとする
(出席点については前年度開始のものもポイント換算する)
- 委員としての役職ポイントと出席回数を合計する
- 委員 2点 出席点 1回0.5点
- 委員長 5点

委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(2)学部の委員会

委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
例)FD委員会	8	委員	H23.4~	6.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

学部のWG

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
例)防災WG	5	委員	8月20日~	4.5
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

大学院の委員

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

実践センターの委員

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)病院の委員会/WG

委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(4)学部の役割

- 任期が通年のものは4月1日からのものをポイント換算する
- 学年主任(アドバイザーに加算) 5点
- 副主任(アドバイザーに加算) 2点
- アドバイザー 1学年3点
- 学校医 10点
- ハラスメント相談員 5点

	※新規 有/無	学年	期間	ポイント
学年主任				0.0
学年副主任				0.0
アドバイザー				0.0
学校医				0.0
ハラスメント相談員				0.0

ポイント小計
0.0

入学試験(大学センター試験を含む)

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■一般入試 本部長 5点 本部長 2点 会場責任者 3点 会場副責任者 1点 | <ul style="list-style-type: none"> ■推薦・社会人入試 本部長 3点 本部長 1点 (会場責任者、健康診断委員長も兼ねる) 試験監督 1点 |
|--|---|

健康診断委員長	1点	
試験監督	1点	センター試験監督 1点
受付・救護	1点	
採点補助	1点	

試験名	役職	月日	ポイント
例)一般入試	監督	2月1日	1.0
一般入試			0.0
推薦・社会人入試			0.0
センター試験			0.0

ポイント小計
0.0

試験監督(看護総合も含む)

■試験監督	1回0.5点
-------	--------

試験名	学年	月日	ポイント
例)病態治療1中間	2	6月25日	0.5
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

学部各種行事への参加

■学部行事			
■新入生研修	企画委員5点	参加1点	
■救命講習会	企画委員2点	参加0.5点	
■防災訓練	企画1点	参加0.5点	
■FD研修	企画1点	参加0.5点	
■キャンドルセレモニー	委員1点		
■短期海外留学	引率10点		
■オープンキャンパス	参加1点		
■一日体験入学	参加1点		
■予防接種	1回0.5点		
■高校訪問	1校0.5点 (役割に高校名、件数は高校数)		
■大学説明	参加1点		
■紀要査読	1件 1点		

行事名	役割	月日	※新規 日数(件数)	ポイント
例)新入生研修	企画委員	4月20, 21日	5.0	5.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

■その他役割	1回 0.5点
--------	---------

行事名	役割	月日	日数	ポイント
				0.0
				0.0

大学院入学試験

■本部長	3点
■本部長	1点
■(会場責任者、健康診断委員長も兼ねる)	
■試験監督	1点

試験名	役職	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

大学院行事への参加

■準備委員	1点
■参加	0.5点

行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

センター行事への参加

■準備委員	1点
■参加	0.5点

行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計 0.0

4. 社会貢献	領域合計点へ	ポイント合計 0.0
---------	--------	----------------------

(1)学内

(a)医学部への貢献
研究指導

■大学院研究指導 1名 10点					
領域	指導対象者氏名	研究課題	期間	人数	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b)病院への貢献
診療

■外来診療 1コマ(半日)1点				
診療科	コマ/週	期間	週数	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(c)大学公開講座講師

■公開講座講師 10点 ■(癌プロジェクト公開講座も含む)			
公開講座名	開催日	タイトル	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(2)学外

(a)学会

(i)国際または全国規模の役員

■全国規模の学会の理事・監事		20点	
■評議員・代議員		10点	
■その他の委員		5点	
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(ii)地方会の役員

■地方会の理事・監事		10点	
■地方会レベルの役員		5点	
■看護協会の役員		5点	
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(iii)学会開催

■全国規模の学会の会長		20点		
■全国規模の学会の委員		3点		
■地方会の会長		10点		
■地方会の学会開催時の委員		1点		
開催学会名	開催日	開催場所	役職	ポイント
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b)政府

■委員会など<10点			
委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(c)自治体

■委員会など<5点			
委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(d)新聞・テレビ報道

■全国レベル 20点				
■地方レベル 10点				
メディア名	月日	内容	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(e)交流

(i)教育・研究連携

■講習会・研修会の講師							
3時間を超えるもの 2点							
3時間以内のもの 1点							
組織名	月日	開催場所	規模(参加者数)	時間区分	時間	内容	ポイント
							0.0
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(ii)他大学での講義

■講義 1コマ1点					
大学・学部名	授業科目名	学年	学期	講義コマ数	ポイント
例)A大学	分子病態学	3	前期	1	1.0
					0.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(iii)医療連携

■ 1回1点							
組織名	回数	月日	場所	規模	時間	内容	ポイント
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(iv)職能団体などの委員

■委員 2点				
組織名	委員の名称	名前	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)自由記述

■太枠の中を **ダブルクリック** すると入力できます。
 ■改行は **ALTキーを押しながらENTERキー** でできます。
 ■欄が足りなくなったら **行の挿入** で増やせます。

(自由記述欄)

部門・所属一覧

部門	所属
基礎	<基礎科学部門>心理学
	<基礎科学部門>数学
	<基礎科学部門>物理学
	<基礎科学部門>化学
	<基礎科学部門>生物学
	<基礎科学部門>外国語
	<基礎科学部門>哲学
	<基礎医学部門>解剖学講座
	<基礎医学部門>生理学講座
	<基礎医学部門>生化学講座
	<基礎医学部門>薬理学講座
	<基礎医学部門>病理学講座
	<基礎医学部門>感染・免疫学講座
	<基礎医学部門>衛生学講座
	<基礎医学部門>公衆衛生学講座
	<基礎医学部門>法医学講座
	臨床
<臨床医学部門>内科学講座（肝胆膵内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（循環器内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（内分泌・代謝内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（神経内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（血液内科）	
<臨床医学部門>内科学講座（糖尿病内科）	
<臨床医学部門>精神科学講座	
<臨床医学部門>小児科学講座	
<臨床医学部門>外科学講座（消化器外科）	
<臨床医学部門>外科学講座（呼吸器外科）	
<臨床医学部門>外科学講座（乳腺・内分泌外科）	
<臨床医学部門>外科学講座（腎移植外科）	
<臨床医学部門>外科学講座（心臓外科）	
<臨床医学部門>外科学講座（血管外科）	
<臨床医学部門>脳神経外科学講座	
<臨床医学部門>整形外科学講座	
<臨床医学部門>皮膚科学講座	
<臨床医学部門>泌尿器科学講座	
<臨床医学部門>眼科学講座	
<臨床医学部門>耳鼻咽喉科学講座	
<臨床医学部門>産婦人科学講座	
<臨床医学部門>放射線医学講座	
<臨床医学部門>麻酔科学講座	
<診療科>消化管内科	
<診療科>肝胆膵内科	
<診療科>循環器内科	
<診療科>呼吸器・アレルギー内科	
<診療科>内分泌・代謝内科	
<診療科>神経内科	
<診療科>腎臓・リウマチ膠原病内科	
<診療科>血液内科	
<診療科>糖尿病内科	
<診療科>精神神経科	
<診療科>小児科	
<診療科>消化器外科	
<診療科>心臓外科	
<診療科>血管外科	
<診療科>呼吸器外科	

部門	所属
臨床	<診療科>脳神経外科
	<診療科>整形外科
	<診療科>皮膚科
	<診療科>泌尿器科
	<診療科>産科・婦人科
	<診療科>眼科
	<診療科>眼形成・眼窩・涙道外科
	<診療科>耳鼻咽喉科
	<診療科>放射線科
	<診療科>麻酔科
	<診療科>総合診療科
	<診療科>形成外科
	<診療科>救命救急科
	<診療科>リハビリテーション科
	<診療科>睡眠科
	<診療科>感染症科
	<診療科>病理診断科
	<診療科>歯科口腔外科
	<中央診療部>中央臨床検査部管理室
	<中央診療部>中央手術部
	<中央診療部>救急診療部
	<中央診療部>輸血部
	<中央診療部>周産期母子医療センター
	<中央診療部>脳卒中センター
	<中央診療部>臨床腫瘍センター
	<中央診療部>緩和ケアセンター
	<中央診療部>周術期集中治療部
	<中央診療部>脊椎脊髄センター
	<中央診療部>臨床研究支援センター
	<中央診療部>先制・統合医療包括センター
	<中央診療部>栄養治療支援センター
<中央診療部>脳血管内治療センター	
<病院>医療安全管理室	
<病院>卒後臨床研修センター	
<病院>医療情報部	
その他	<寄附講座>造血細胞移植振興寄附講座
	<寄附講座>分子標的医薬寄附講座
	<寄附講座>腫瘍免疫寄附講座
	<寄附講座>腎疾患・移植免疫学寄附講座
	<寄附講座>地域総合診療医学寄附講座
	<寄附講座>分子疫学・疾病制御学寄附講座
	<寄附講座>疼痛ゲノム学寄附講座
	<メテイククリニック>メテイククリニック
	<医学部>産業保健科学センター
	<医学部>運動療育センター
	<医学部>学際的痛みセンター
	<医学部>医学教育センター
	<医学部>シミュレーションセンター
	<医学部>IR室
	<医学部>総合医学研究機構動物実験部門
	<大学>研究創出支援センター
	<大学>災害医療研究センター
<大学>加齢医科学研究所	
<大学>分子医科学研究所	
<大学>分子医科学研究所第一部門	
看護学部	<看護学部>看護学部